

令和元年度 とくしま高齢者いきいきプラン策定評価委員会 議事概要

1 日時・場所

令和元年10月28日（月）午前10時30分から正午まで
徳島県庁（万代庁舎）10階 大会議室

2 出席者

委員28名中22名出席（代理出席含む。）

伊勢佐百合委員、稲井芳枝委員、遠藤彰良委員（代理）、大下直樹委員（代理）、大塚忠廣委員、岡田あかね委員、寒川浩治委員、日下公明委員、武田道子委員、手束昭胤委員、富永清充委員、中村太一委員、中村忠久委員、西岡真奈美委員、橋本昌和委員、東山祐陽委員（代理）、細井啓造委員（代理）、向井洋子委員、矢間奈津子委員、柳澤幸夫委員、山口浩志委員、山本雅敏委員

3 議事次第

- (1) 委員長及び副委員長の選任について
- (2) とくしま高齢者いきいきプラン(2018～2020)の概要について
- (3) とくしま高齢者いきいきプランに係る本県の取組状況について
- (4) 介護保険法に基づく法定報告について
- (5) その他

4 議事概要

(1) に関し、委員長については委員の互選により武田委員を選任、副委員長については武田委員長の指名により柳澤委員を選任した。

(2) から(4) までは配付資料により事務局から説明した後、次のとおり意見交換が行われた。

(5) については、来年度、計画策定のため、委員会を4回程度開催予定の旨事務局から説明した。

<意見交換>

【委員】

住民運営の通いの場について、2018年度にかなり増えているようだが、他県と比べて徳島県の状況はどうか。

また、増えた要因は何か。

【事務局】

他県と比較したものを手元に持ち合わせていないが、資料は、県が把握しているもののみ記載しており、実際にはもっと増えている可能性もある。例えば、市町村ではなく老人クラブ会員が立ち上げた通いの場もある。

市町村把握分の数値となるが、平成29年2月時点で162箇所であった通いの場は、平成31年4月時点では606箇所となっている。

こうした場は、身近に通えるところにあることが重要と考えている。

【委員】

ユニバーサルカフェについて、利用者数の把握はしているのか。

【事務局】

ユニバーサルカフェについては、毎日活動しているところもあれば、月2回決まった時間だけ活動しているところなど、いろいろな形態があるという事情もあるため、利用者数は把握できていない。

【委員】

医療の分野では、期限が切れた医薬品を高齢者に投与した事例があり、厚生支局へ公益通報がされた。立入検査を行うのだが、何月何日何時頃に伺うと事前に通告し、大名行列のように大勢で行うだけでは、立入検査が終わると元通りになってしまう。抜き打ちで現場を視察することも必要ではないか。

医療・介護施設の定員オーバーなどに対し、もう少し取り締まりを厳しくしてもらいたい。

【事務局】

当方では、老人福祉施設や居宅介護事業所に対し指導監査を行っている。

2年に1回など定期的に行うものについては事前通告をするが、無通告で実施する場合もあり、するべきことができていなければ、文書による指摘などを行う。必要に応じて行政処分を行うこともある。

引き続き、対応して参りたい。

【委員】

ユニバーサルカフェや体操教室などがたくさんできると、質の確保が大切となる。「何カ所できる」ということよりも質の確保が大事である。

週に1回とか月に1回とか、実施回数もばらばらだが、どこが管理するのか。

【事務局】

県では、高齢者や障がい者、子どものうち2人以上が交流し、1年以上にわたり月2回以上開かれており、活動に適した有資格者等が参画しているものを「徳島県版ユニバーサルカフェ」と認定している。認定期間を3年に区切るとともに、毎年活動報告を行ってもらふことにより、質の担保を図っている。

【委員】

有資格者を設置とのことだが、どんな資格があればいいのか。
また、監査に入る予定はあるのか。

【事務局】

ユニバーサルカフェは、絆づくりを目的に交流を行う場所と捉えており、法律で規制されたものとは趣旨が異なると考えている。

ユニバーサルカフェでは、様々な活動が行われているが、例えば調理を行うところであれば、適切な届出を行っており、専門職もいるというように、それぞれの活動に応じて必要な有資格者を置くということである。

【委員】

岡山で行われた会合に出席した際、人生の3大苦という話があった。かつては戦争・病気・貧困だったが、現在は退屈・孤独・不安とのことであった。

通いの場や地域ケア会議といったものは1つの手段である。通いの場では体操がメインだと思うが、例えば食事や薬に関する問題に対し、どれだけの専門職がどういうことをやっているかということが大切である。

病気、介護、認知症などにならないための活動を行うということだろうが、いずれそうしたものになり、誰かのお世話になる時が来る。そうした先々の不安を解決できるのが専門職であり、そういったことができる場づくりも計画に取り入れてほしい。

【事務局】

例えば、住民主体の通いの場において、介護予防体操は20市町村で、口腔機能向上に関する取組みは15市町村で、低栄養予防では13市町村でそれぞれ取り組まれ、各専門職が支援している。

住民の声をいかに拾い上げ、施策に反映できるかということが大事だと考えている。

【委員】

事業推進の背景、つまり地域の実情を把握することが重要である。

いきがづくりでは、地域の足がないため参加できない状況がある。

まちづくりでは、市町村で努力しているところもある。

地域包括ケアの関係では、4～5年前から専門職は勉強しているが、地域に浸透していない。地域でシステムに動きが出ているところもあるが。

移動販売を進めているが、地域にいるのは、おばあさんばかりとなっている。こうした人をどのように位置づけていくのか。

認知症サポーターは、普段何をやっているのか。

介護助手については、どんどん推進してほしい。

背景を把握すれば、結果に違いが出てくるのではないか。

【事務局】

地域の足に関し、車の運転ができなくなったときの問題は重要と認識している。年明けにフォーラムを行い、他県の先進事例を共有したい。

地域ケアについて、市町村によって現場の課題や人材に差があることは認識している。市町村を巡回して課題を共有し、対応を図って参りたい。

介護助手については、介護助手を受け入れた施設・介護助手として働いたシニアの方双方から好評をいただいた。こうした取組みを他分野にも拡大して参りたい。

【委員】

今、話のあった認知症サポーターの活動について教えてほしい。

【事務局】

施設の方々にもキャラバン・メイトとして、認知症サポーターの養成にご協力いただき、5年間での認知症サポート数の伸び率は全国一となった。

認知症サポーターの活動については、今年度から新たにチーム（チームオレンジ）で活躍できるよう、2つのモデル地区において、認知症カフェの運営や、認知症カフェに行くまでの介助を行うこととしている。

こうした取組みが県内全域に広がるよう支援して参りたい。

【委員】

「実装」という言葉が使われるようになったが、これは「実現せよ」ということのような。プランを立てたら成果を上げなければならない。

かなり腰を入れて、地に足がついた取組みを行っていく必要がある。

福祉は、ビジネスとは違うが、徹底することで結果が出ることとなる。

【委員】

次期計画の期間である次の3年間は、非常に厳しい3年間になると思う。人材難はより顕著になるだろうし、これにより施設の稼働率も下がる。

特に在宅介護サービスは、かなりの事業者がつぶれていっている。

阿波市では、訪問介護員のなり手がおらず、事業所として成り立っていくことが非常に困難になっている。

介護保険料を払ってもサービスを受けられない市町村が出てくるのではないかと。地域包括支援センターにも大変な状況がやってくるだろう。

【委員】

先ほど地域の実情を知る必要があるとの話があった。認知症初期集中支援チームについて、全市町村で設置済みとのことだが、その活動状況を知りたい。

【事務局】

訪問件数は、実人員で262人である。

【委員】

認知症カフェを毎週1回、月4回開いており、認知症の方や障がい者の方が来られるが、皆さんお話をしたがついている。

認知症カフェでは、脳トレや季節の行事、防災に関する勉強などを行っており、地域包括支援センターなどに支援してもらい、有資格者の方にもご協力いただいている。

無料のため運営は厳しいが、楽しくさせてもらっている。

認知症カフェがもっと増えてほしい。

【委員】

それぞれの数値目標は分かるが、これからは「実践の評価」「活動内容の評価」を行うことが重要になってくる。

それが次期計画策定につながってくる。

【委員】

プランを作るだけでなく、その評価をするのであれば、中身が問われる。

認知症サポート医は、ばらまきだと思う。私がいる地域で、どういう活動がされているか聞いたことがない。

きちんとやるべきことができているのか。それに対する実績を出してほしい。
認知症サポーターも増えたのは分かるが、全国的に見れば低い。

認知症の方の施設入居者の実数、在宅の方の実数は把握しているのか。施設入居者がほとんどだと思う。

【事務局】

実数の把握は困難だが、国の推計値をそのまま本県に当てはめると、平成27年度で認知症の方は42,000人、2025年度では48,000人の見込である。

認知症の方でも、施設に入居されない方もたくさんいると認識しており、認知症になっても地域で暮らし続けられるよう支援して参りたい。

認知症サポーターの活動についてだが、まずは認知症に対する正しい知識を身につけていただくということで地道に取り組んでいる。

【事務局】

とくしま高齢者いきいきプランの70ページ及び71ページに、地域包括ケアに関する主要施策の工程表を記載しており、この工程表に基づいて取組みを進めているところ。

認知症サポート医は、認知症初期集中支援チームの中心として、各地域でサポートいただいている。